

ラーニング・サポーター ♪ 7月のつぶやき -JWUラーニング・コモンズさくらより-

図書館2階 JWUラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つぶやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています！

<7月のつぶやき♪INDEX>

p.1 カササギ詐欺 @T.K. (関連文化論専攻博士課程後期3年) 7月10日 tweet!

つぶやき1 ♪ カササギ詐欺

先日の七夕は曇り。織姫と彦星は、無事会うことができたのでしょうか。6世紀の中国では、牽牛と織女の伝説と針仕事の上達を願う行事が結び付き、「乞巧奠(きっこうでん)」というお祭りになりました。それが奈良時代に日本へと伝わり、皆様が知っている「七夕」へと展開していきました。

牽牛と織女が天の川を渡る時には、カササギが橋となってくれます。

牽牛と織女だけではなく、カササギもまた、七夕には欠かせない要素でした。ただ、七夕と一緒に知られるようになったカササギは、実は日本に生息しない鳥でした。江戸時代頃になると九州の一部で観察されるようになるそうなのですが、それまでの日本では想像上の生き物でした。日本ではどのような姿だと想像されていたのか、窺い知ることのできるお祭りがあります。

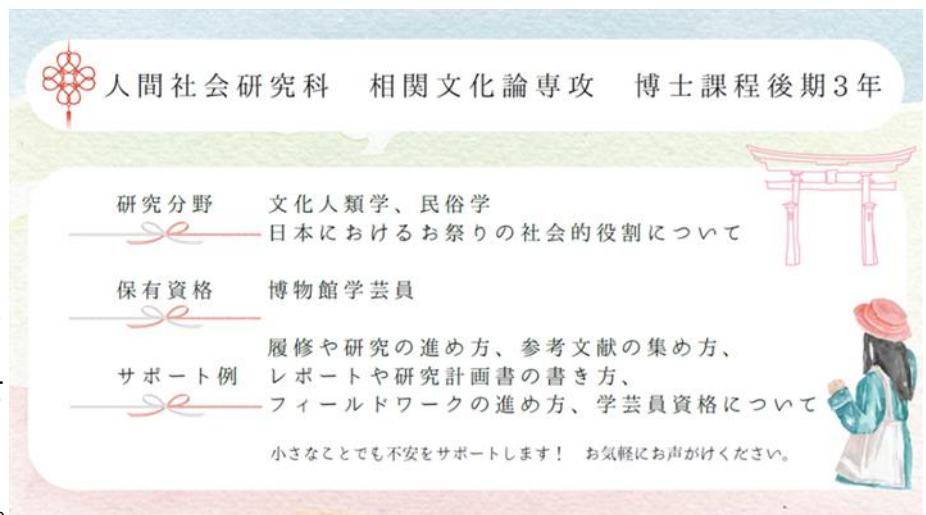
京都の祇園祭には、南北朝時代頃から「大舎人の鵲(かささぎ)鉾」という鉾が出ていました。美しい傘鉾と2人で舞う鷺舞、すなわち「かさ」と「さぎ」を合わせて「かささぎ」というわけです。傘には鷺の人形が、鷺の頭のとっぺんには傘が付けられていて、3重の意味で「かささぎ」という、洒落が効いた鉾でした。

祇園祭には、各町から様々な伝説に基づいた鉾や傘鉾が出されます。大舎人では、なぜカササギが選ばれたのでしょうか。「大舎人」というのは大舎人座を指し、現在の西陣の辺りだったといわれています。西陣は現在も西陣織で有名ですが、その前身となる織物組合の人々が集まっていました。つまり、牽牛と織女を繋ぐカササギは、大舎人の人々にとって最も適した題材だったのです。

しかし、応仁の乱によって祇園祭は中断し、鵲鉾も再興されることなく姿を消してしまいました。それでも、当時見ていた人にとって、鷺舞はとても印象的だったのだと思います。山口県から島根県の津和野という場所へ伝わった鷺舞は、長い時を経て1956年に祇園祭へ逆輸入されることとなり、復活を遂げます。

物学的に、カササギはスズメ目カラス科、サギはペリカン目サギ科に分類されます。名前が似ているだけでかなり異なる生き物だったので、当時の日本人がカササギを見ていたら、まさにサギだと思ったかもしれません。

七夕を迎え、様々な地域の架け橋となって文化を繋いでくれたカササギに願いを届けてもらえるよう、日々過ごしていけたらいいなと感じました。それでは、また来月。



人間社会研究科 関連文化論専攻 博士課程後期3年

研究分野 文化人類学、民俗学
日本におけるお祭りの社会的役割について

保有資格 博物館学芸員

サポート例 履修や研究の進め方、参考文献の集め方、
レポートや研究計画書の書き方、
フィールドワークの進め方、学芸員資格について

小さなことでも不安をサポートします！ お気軽にお声がけください。